

2020年4月30日

特別研修終了届兼報告書

所 属 文学部コミュニケーション学科

職 位 准教授

報告者 高橋京子

私は、2019 年度大学教員特別研修員として学外研究に就いておりましたが、以下のとおり終了いたしました。

つきましては、「フェリス女学院大学教員特別研修制度に関する規程」(2000年5月22日制定)第11条第2項の規定に基づき、研修成果に関する報告書を提出いたします。

1. 研修テーマ・研修先等

研修テーマ	インドとハワイのマーシャルアーツの通文化的研究
-------	-------------------------

3. 研修報告

(1) 実施概要：研修内容を具体的に記載してください。

【研修前半】Asia Pacific Dance Festival (以下、APDF) 以外の期間は、ハワイのマーシャルアーツであるルアを対象に、文献調査、トレーニングの参与観察、複数の有識者へのインタビュー、ルアの体験を含むフィールドワークを行った。

参与観察や体験から、基本的にルアには、型があり、武器をもつ強打の型、最後に噛むというような型も含まれていることがわかった。ルアの動作には、フラ(舞踊)のカヒコ(カヒコ)の動作と重なる部分がある。フラの指導者でルアを習得している者の中には、この知識を有している者もいる。またルアの指導者の中には、医学的な知識を有している者もいる。今となっては本来のルアがどのようなものかを知る術はないが、インフォーマントであるルア指導者は、合気道や太極拳などの知識を融合してルアの基礎トレーニングを構成していた。

【研修後半】APDFは、7月22日～8月4日に開催された。最初の10日間、フラ、マレーシア、カナダ先住民という3種の舞踊団による講義、ワークショップを経験した。マレー系、中華系とマレーシアのダイバーシティを身体を通して目の当たりにし、身体を通して自らの歴史を表現するカナダ先住民の独特な動きを学んだ。最後の2日間、国際学会の場では、さらに多くの国々(アメリカ本土、スペイン、インド、フィリピン等)から研究者らが集い、研究発表やワークショップに触れる機会となった。一般発表では、他国の身体表現と癒しの事例に関する知識の提供も得ることができ、見識が広がった。

(2) 研修成果及び今後の進展の見込みについて記載してください。

【フィールドワーク結果】ハワイのマーシャルアーツであるルアは、現在では子どものお稽古事として教室で伝承されているのではなく、ハワイ人のアイデンティティや誇りと関わって、自主的に主催され伝承されている。ルアの指導者およびトレーニングへの参加者は、自らをハワイ人と認識している男性のみであった。彼らは「ハワイ人だからルアを習う」と言う。指導者も参加者も、ルアの他に合気道、剣道、カンフーなどを経験しており、マーシャルアーツの一つとしてルアを認識しているようであった。一方、ルアとともに研究対象としていたインドのカラリパヤットについては、新型コロナウイルスの影響により、2月下旬～3月のインド渡航を取り止める結果となったため、フィールドワークを実施することができなかった。これまでに研究をしてきたインドのカラリパヤットと、今回調査したルアとは以下の類似点、相違点があげられる。ルアはフラ、カラリパヤットはテイヤムやカタカリという土地に固有の舞踊（身体表現）と関わる点、ルアはロミロミ、カラリパヤットはウリチルという土地に固有のマッサージ体系とも関わる点が類似点としてあげられる。しかし、ルアは、噛む・指で神経を突くなど相手を倒すという目的に集約される型が主であるのに対し、カラリパヤットは自身のリンパを刺激し健康増進を促すような型も含まれていて、相違点としてあげられる。

【今後の進展の見込み】ルアとカラリパヤットの調査を継続する。特にルアについては、ハワイ語、ハワイの文化や歴史との関わりが深いため、論文執筆ができるほどに考察を深めたい。

4. 研修成果物

研修成果物(著書・学术论文・研究発表・演奏会等 予定も含む)について、発表時期等含めて記載してください。

- ①Asia Pacific Dance Festival (国際学会大会)において、病氣治癒祈願の舞踊である鹿児島とインドの身体表現と癒しというテーマでの研究発表 (8月3日)。
- ②遠藤保子監修 弓削田綾乃・高橋京子・瀬戸邦弘・相原進編著『映像で学ぶ舞踊学—多様な民族と文化・社会・教育から考える—』大修館書店、2020年を出版。
- ③日本スポーツ人類学会大会 (3月26、27日)での一般発表は新型コロナウイルスのため中止。